新鳥取県史資料編　古代中世２　古記録編　刊行記念講演会

県民カレッジ連携講座

古記録で読み解く 古代中世の鳥取

事前の参加申し込み、参加料とも不要

日　時　平成 29 年 12 月 3 日（日）

【午前の部】　午前 9 時 30 分～ 12 時
【午後の部】　午後 1 時～ 3 時 30 分

会　場　鳥取県立博物館　講堂
（鳥取市東町 2 丁目 124　TEL: 0857-26-8042）

鳥取県立公文書館県史編さん室では、平成 29 年 3 月に『新鳥取県史資料編 古代中世 2 古記録編』を刊行しました。このたび、本書の編さんを担当した専門委員が収録史料から浮かび上がる歴史をわかりやすく解説し、古代中世の因幡・伯耆の新たな一面を描き出します。

午前の部　天皇・貴族と鳥取	午後の部　神社・寺院と鳥取
受付・開会行事	講演④「中世大山寺で行われた蓮華（れんげ）会について」 講師：倉恒康一（島根県古代文化センター主任研究員）
講演①「因幡国造氏と伯耆国造氏」 講師：石田敏紀（鳥取県立倉吉西高等学校教諭）	講演⑤「幻の因伯の中世寺院 ―因幡仙林寺と伯耆光孝寺―」 講師：米谷　均（早稲田大学非常勤講師）
講演②「院政期の典籍書写と書風」 講師：宮﨑　肇（東京大学史料編纂所特任研究員）	講演⑥「棟札にみる戦国武将の寺社造営」 講師：岡村吉彦（鳥取県立公文書館　県史編さん室長）
講演③「後南朝と因幡国」 講師：末柄　豊（東京大学史料編纂所准教授）	全体総括「県史編さん事業を将来につなげるために」 講師：秋山伸隆（県立広島大学教授、古代中世部会長）

主催：鳥取県立公文書館県史編さん室、鳥取県立博物館　※当日は、会場で県史関係の刊行物の販売も行います。

問い合わせ：鳥取県立公文書館県史編さん室（鳥取市尚徳町 101　電話 0857-22-4620）

講演①

「因幡国造氏と伯耆国造氏」　講師：石田敏紀（鳥取県立倉吉西高等学校教諭）

因幡国造氏と伯耆国造氏は、それぞれ飛鳥時代に因幡国・伯耆国の国造を務めた豪族です。今回の講座では、奈良時代に平城京で下級官人として勤務した因幡田作、桓武天皇の寵愛を受けた因幡浄成女、桓武天皇の側近・藤原種継を暗殺した伯耆桴麻呂、藤原道長の側近で三蹟の一人である藤原行成の日記である『権記』にあらわれる因幡采女などの活動を通じて、奈良時代から平安時代中期までの因幡・伯耆の様子を解説します。

講師プロフィール

鳥取市生まれ。奈良教育大学大学院修士課程修了。鳥取県立博物館学芸員・主幹学芸員を経て、2014年より現職。
主な著書・論文：鳥取県史ブックレット8『古代因幡の豪族と采女』（鳥取県、2011年）、同ブックレット15『鳥取県の学童集団疎開』（鳥取県、2014年）、「光仁・桓武朝における因幡国造氏－浄成女と因幡内親王の乳母への再検討から－」（『鳥取地域史研究』2号、2000年）、「因幡の豪族と国制の研究」（『出雲国の形成と国府成立の研究』島根県古代文化センター、2010年）など。

講演②

「院政期の典籍書写と書風」　講師：宮﨑　肇（東京大学史料編纂所特任研究員）

文治2年（1186）の書写奥書をもつ伯耆町善福寺所蔵の大般若経は右肩下がりの特徴的な書風で書かれていますが、そうした書風は典籍類を中心に院政期の書跡に広範に見られるものです。書き手が異なるにもかかわらず、似たような書風が全国的に広がり、その後忽然と消える背景には、何があったのでしょうか。右下がり文字の生成の時期と背景を、院政期の文化的動向から考えたいと思います。

講師プロフィール

千葉県生まれ。早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。博士（文学）。早稲田大学文学学術院21世紀COEアジア地域文化エンハンシング研究センター客員研究助手、日本学術振興会特別研究員PD（東京国立博物館文化財部）を経て、現職。
主な著書・論文：「中世書跡の和様と唐様」（『日本美術全集8 鎌倉・南北朝時代Ⅱ 中世絵巻と肖像画』小学館、2015年）、「歴史的文字分析の視点をめぐって」（『漢字字体史研究 二』勉誠出版、2016年）など。

講演③

「後南朝と因幡国」　講師：末柄　豊（東京大学史料編纂所准教授）

1392年の南北朝合一後、それまで南朝の天皇であった熙成王（後亀山天皇）は、京都にのぼって嵯峨に隠棲します。熙成王は、朝廷（もとの北朝）から太上天皇の称号を贈られ、そののち称号を辞退して出家しましたが、旧南朝の廷臣の祗候を得て、貴族からは「仙洞」として遇されていました。そして、後亀山法皇の生活を支えていたのは、因幡の国衙領でした。その後の旧南朝の衰勢のなかで因幡の国衙領がどのように扱われたのか、確かめてみたいと思います。

講師プロフィール

千葉県生まれ。東京大学大学院人文科学研究科博士課程後期中退。東京大学史料編纂所助手を経て現職。
主な著書・論文：「応仁・文明の乱」（『岩波講座日本歴史8 中世3』岩波書店、2014年）、『戦国時代の天皇』（山川出版社、2018年、近刊）など。

講演④

「中世大山寺で行われた蓮華会について」　講師：倉恒康一（島根県古代文化センター主任研究員）

山陰地方特有の民俗習慣として６月１５日を「麦の節句」「蓮華の日」と称し、この日は麦団子を食べるとされていますが、大山寺をはじめとする山陰地域の寺院に伝わる中世の古文書・古記録にも、この日に催される行事として「蓮華会」が記録されています。これがどのような行事であったのか、今回刊行された『古記録編』に収録されている「大山寺縁起」などの史料を使い、私見を述べてみたいと思います。

講師プロフィール

倉吉市生まれ。広島大学大学院文学研究科修了。鳥取県職員を経て、2015年から現職（島根県古代文化センター配属）
主な著書・論文：「戦国初期の石見国の政治秩序について」（『芸備地方史研究』254号、2007年）、「戦国期因幡武田氏の権力形成過程と家臣団構造」（『鳥取地域史研究』13号、2011年）など。

講演⑤

「幻の因伯の中世寺院―因幡仙林寺と伯耆光孝寺―」　講師：米谷　均（早稲田大学非常勤講師）

鳥取県には、中世以前に存在し戦国時代に消滅した寺院が多数あります。このうち鳥取市布勢にあった仙林寺は、湖山池のほとりに建てられた天台宗寺院で、三重塔がそびえ、近接地に因幡の守護所が設けられていました。また倉吉市巌城にあった光孝寺という臨済宗寺院は十刹寺院という高い格式を誇り、山名氏の手厚い保護を受けていました。本報告では、『古記録編』に収録された古記録や金石文を通じて、中世に因幡と伯耆にあった幻の大寺院を紹介します。

講師プロフィール

神奈川県生まれ。早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。現在、早稲田大学商学部・中央大学文学部・共立女子大学文芸学部兼任講師。
主な著書・論文：「中世日明関係における送別詩文の虚々実々」（『北大史学』55号、2015年）など。

講演⑥

「棟札にみる戦国武将の寺社造営」　講師：岡村吉彦（鳥取県立公文書館　県史編さん室長）

県内各地の神社や寺院には、建物の造営の際に作成される棟札（むなふだ）と呼ばれる木札が多数残っています。この棟札には、建造物の造営年月日や願主・地頭の名だけなく、造営に至った経緯や、従事した職人・仏師など、古文書にはみられない数多くの歴史情報が含まれています。本報告では、天文年間の尼子晴久による大山寺大智明権現の造営事業を中心に、棟札に記された内容から浮かび上がる戦国武将の寺社造営の目的・意義等に迫ってみたいと思います。

講師プロフィール

鳥取市生まれ。広島大学文学部史学科卒業。県立高等学校の教諭を経て、2006年より県史編さん室専門員として勤務。2012年より現職。
主な著書・論文：鳥取県史ブックレット1『織田vs毛利―鳥取をめぐる攻防―』（鳥取県、2007年）、同ブックレット4『尼子氏と戦国時代の鳥取』（同、2010年）、「戦国期因幡国における守護支配の展開と構造」（『鳥取地域史研究』5号、2003年）など。